

CallManager DC Directory および Active Directory - ユーザが表示されない

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[DC Directory でユーザを非表示にする](#)

[Active Directory 2000 でユーザを非表示にする](#)

[Active Directory 2003 でユーザを非表示にする](#)

[Cisco Unified Call Manager 5.x 以降を同期する際に DC Directory および Active Directory でユーザを非表示にする](#)

[ユーザを再表示する](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ユーザを社内ディレクトリで表示させない場合に、ユーザを非表示にする方法を説明します。これらのユーザは、CTI ユーザ、アテンダント コンソール、Cisco Emergency Responder、Cisco Conference Connection などです。CCMSysUser、CCMAdministrator および PMASysUser ユーザは、すでにデフォルトで非表示になっています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco CallManager の管理
- ディレクトリ管理

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 4.x 以降に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

DC Directory でユーザを非表示にする

注: スクリプトの実行後、そのユーザは社内ディレクトリおよび CCMAdmin ユーザ ページでは非表示になります。ユーザを再表示する方法については、このドキュメントの「[ユーザを再表示する](#)」の項を参照してください。

DC Directory でユーザを非表示にするには、次の手順を実行します。

1. パブリッシャ サーバでメモ帳を開きます。
2. 次の 4 行をカット アンド ペーストし、C: ドライブに `hideuser.ldif` として駆動して下さい。
注: スペースは次の出力のように表示されます。LDIF ファイルに余分なスペースがないことを確認します。余分なスペースがあると、スクリプトを実行したときに失敗します。

```
dn: cn=[userid], ou=users, o=cisco.com
changeType:modify
replace:Description
Description:CiscoPrivateUser
```
3. `[userid]` に非表示にするユーザを設定します。次に、例を示します。

```
dn: cn=ctiuser,
ou=users, o=cisco.com
changeType:modify
replace:Description
Description:CiscoPrivateUser
```
4. `[Start] > [Run] > [cmd]` の順に選択してパブリッシャ サーバでコマンド プロンプトを開き、DC ディレクトリの説明フィールドを設定するために次のスクリプトを実行します。

```
ldapmodify -h <server name> -p 8404 -D "cn=Directory
Manager,o=cisco.com" -w <DCDAdmin Password> -c -f hideuser.ldif.txt
```

 正常に実行されたことが出力に表示されています。

```
C:\>ldapmodify -h CallManagerPub -p 8404 -D
"cn=Directory Manager, o=cisco.com" -w Cisco -c -f hideuser.ldif.txt
modifying entry cn=ctiuser, ou=users, o=cisco.com
```

Active Directory 2000 でユーザを非表示にする

Windows 2000 サポート ツールの一部として使用可能な Microsoft Active Directory Service Interfaces (ADSIEdit)、またはその他の LDAP ツールを、`[Description]` フィールドを更新するために使用します。ユーザの `[Description]` フィールドに文字列 `[CiscoPrivateUser]` を追加します。ツールを使用できない場合は、次の出力を使用します。

```
dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: CiscoPrivateUser
```

このファイルを、アクティブ ディレクトリ サーバに `hideuser.ldif` として保存します。次に、アクティブ ディレクトリ サーバで `ldifde -l -f hideuser.ldif` を実行します。

Active Directory 2003 でユーザを非表示にする

次の 5 つの行をコピーします (最初の 4 行の後にある「-」に注意してください)。Active Directory 2003 ではこれが必要です。また、Active Directory 2002 からテキスト ファイルに変更

されました。 [userid] を、非表示にするユーザの userid で置き換えます。 [domain] を使用しているドメインに置き換えます。 このファイルを、アクティブ ディレクトリ サーバに **hideuser.ldif** として保存します。

```
dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: CiscoPrivateUser
-
```

アクティブ ディレクトリ サーバで、**ldifde -i -f hideuser.ldif** を実行します。

[Cisco Unified Call Manager 5.x 以降を同期する際に DC Directory および Active Directory でユーザを非表示にする](#)

LDAP 統合アーキテクチャは、Cisco CallManager 4.x と Cisco CallManager 5.x の間で大きく変化したため、Cisco CallManager 5.x でユーザを非表示にするには、次の手順を実行します。

注: Cisco Unified Communications Manager 5.x 以降では、ユーザを非表示にするために、CiscoPrivateUser に説明を設定することはできません。これはサポートされていません。

Cisco Unified Communications Manager が Linux ベースの場合、次の回避策を使用してください。

1. アプリケーション ユーザは、IP フォンからは社内ディレクトリに表示されません。したがって、社内ディレクトリに表示したくないユーザは、アプリケーション ユーザに設定します。これにより、Cisco CallManager 4.x から Linux ベースの Cisco Unified Communications Manager にアップグレードすると、そのユーザを Active Directory または DC Directory から削除できます。
2. Active Directory または DC Directory でユーザを削除しない場合、非表示にするユーザを別の組織ユニットに関連付けることができます。こうすると、Cisco Unified Communications Manager がそのユーザを処理する必要はなくなります。次に、新しい追加のアプリケーション ユーザを作成します。詳細については、「[アプリケーション ユーザの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager が Windows ベースの場合、次の回避策を使用します。

1. Cisco Unified Communications Manager は、Active Directory または DC Directory で LastName 属性を持たないユーザは同期しません。したがって、Active Directory または DC ディレクトリから非表示にするユーザの姓を削除できます。
2. 社内ディレクトリに識別名が表示されないようにするため、Active Directory 側のアクセスコントロール リストを設定できます。
3. 「[」などの特殊文字を [First name]、または [Last name] 属性に追加し、LDAP を再同期できます。これらのユーザは、社内ディレクトリに表示されません。

[ユーザを再表示する](#)

ユーザを再表示するには、フィールドの [Description] を、[CiscoPrivateUser] 以外に変更する必要があります。変更する手順は、ユーザを非表示にする際の手順と似ています。

- **DC Directory** : dn: cn=[user], ou=users, o=cisco.com

```
changeType:modify  
replace:Description  
Description: PublicUser
```

- **Active Directory** : dn: cn=[userid], CN=users, dc=[domain], dc=com
changeType: modify
replace: Description
Description: PublicUser

次に、元のスクリプトを再度実行します。

[関連情報](#)

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)